

## 京葉臨海コンビナートGX推進会議の開催について

京葉臨海コンビナートにおける「GX（グリーン・トランスフォーメーション）」を推進するため、企業、国、地方公共団体を構成員として、新たに京葉臨海コンビナートGX推進会議を設置し、第1回総会を下記のとおり開催しました。

この会議では、GX新産業の創出に向けて、エネルギーの脱炭素化、資源・炭素循環や、規制緩和等のテーマについて、企業主体で社会実装に向けた検討を行うことを目的としています。

第1回総会においては、今後のGXの取組について協議した後、国の政策動向に関する講演を行いました。

### 【会議次第】

日時：令和8年3月25日（水）午前10時～11時10分

場所：TKPガーデンシティ千葉 4階「コンチェルト」

- 1 京葉臨海コンビナートGX推進会議の設置について
- 2 会長挨拶
- 3 京葉臨海コンビナートにおけるGXの取組について
- 4 講演
  - (1) 「サーキュラーエコノミーについて」  
講演者：経済産業省 資源循環経済 課長補佐 今井 美希 氏
  - (2) 「国家戦略特別区域制度について」  
講演者：内閣府 地方創生推進事務局 参事官 笹本 つむぎ 氏

# 京葉臨海コンビナートGX推進会議について

## 【会議の目的】

京葉臨海コンビナートのGXの実現に向けて、立地企業、行政等が連携した取組を推進する。

## 【会員等】

### (1) 会員

#### ① 企業

・ 出光興産 ・ AGC ・ 大阪国際石油精製 ・ コスモ石油 ・ JFEスチール ・ JERA  
・ 住友化学 ・ 東京ガス ・ 日本製鉄 ・ 富士石油 ・ 丸善石油化学 ・ 三井化学  
・ TREホールディングス ・ 岩谷産業 ・ JFEエンジニアリング  
・ 三井住友銀行 ・ みずほ銀行 ・ 千葉銀行

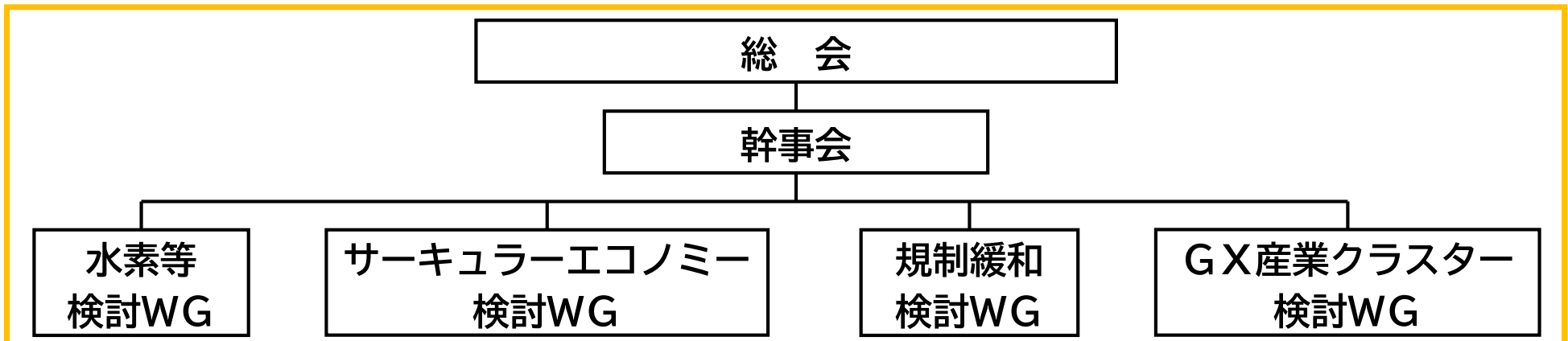
#### ② 関係6市

・ 千葉市 ・ 市原市 ・ 袖ヶ浦市 ・ 木更津市 ・ 君津市 ・ 富津市

### (2) オブザーバー

・ 関東経済産業局 ・ 関東地方整備局

## 【組織】



## 各WGにおける取組について

京葉臨海コンビナートGX推進会議の各WG（ワーキンググループ）では、以下のような取組を行う。  
なお、具体的な取組内容は、今後、関係者間で検討する。

WGの名称	取組内容
水素等 検討WG	水素等の共同利活用を図るための供給拠点整備に向けた検討を実施
サーキュラーエコノミー 検討WG	廃プラスチックのマテリアルリサイクル・ケミカルリサイクルでの活 用手法等（収集量の確保と活用率の向上）の検討を実施
規制緩和 検討WG	GX事業等の推進のため、各種法令等の規制緩和の検討を実施
GX産業クラスター 検討WG	GX戦略地域制度等のGX産業立地政策と連携し、新たな産業クラス ターの形成に向けた検討を実施

# 京葉臨海コンビナートGXの実現に向けたこれまでの取組について

## 1. 水素等の共同利活用に向けた検討

水素、アンモニア、e-メタン、CO<sub>2</sub>（以下「水素等」という。）の共同利活用に向けて、業種を超えた企業間連携のプロジェクトとして、一定の前提条件や想定シナリオを設定し、実現可能性について以下のとおり調査を実施した。

### (1) 水素等の需要量に関する検討

京葉臨海エリアにおける将来の水素等のサプライチェーン構築に向けて、過年度の調査結果や将来の不確実性を踏まえ、改めて2040年、2050年の水素等の需要量について、幅を持たせて推計した。

### (2) パイプラインの敷設ルートや配管等の仕様に関する検討

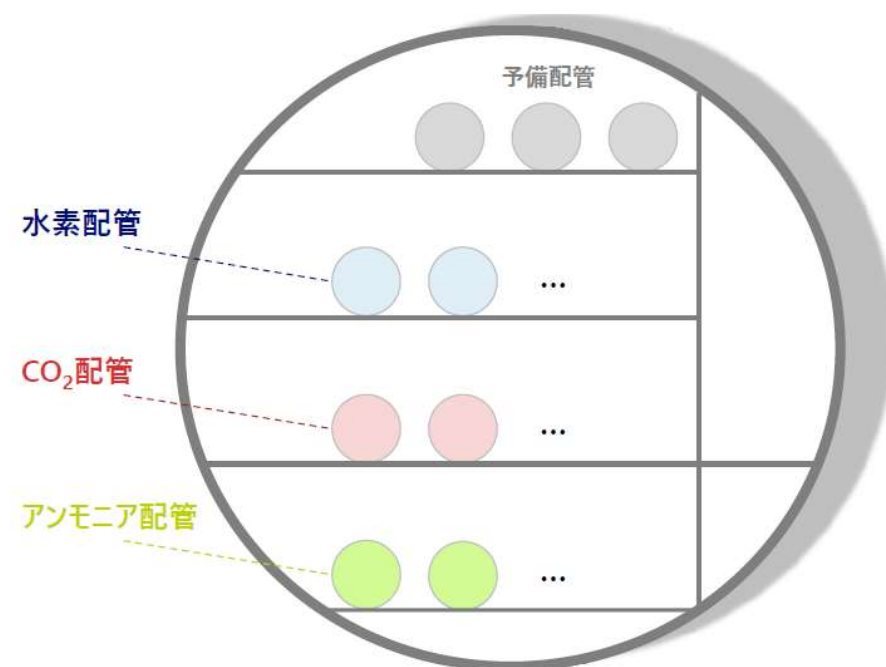
陸路・海路を想定の上、(1)の水素等の需要量を基に、配管口径、配管数を算定し、パイプラインの敷設ルートに関する検討を行った。

また、他の事例や法令の規制等も踏まえて、共同溝内部のレイアウトについても検討を行った。

### (3) パイプライン敷設に掛かる概算費用に関する検討

(2)の結果を基に、公表情報、他の事例や有識者ヒアリング等も踏まえて、パイプラインを敷設した場合に必要な概算費用を算出した。

《水素等の配管のイメージ》



## 2. サーキュラーエコノミーに関する検討

京葉臨海コンビナートにおける廃プラスチック等の活用に向けて、コンビナート及びその周辺地域における利用可能量や、コンビナート立地企業及び自治体に対するアンケート等の調査を実施し、課題の検討等を行った。

## 【参考】京葉臨海コンビナートについて

- 千葉市から富津市までの6市にわたる、南北40km以上のエリアとして広がる京葉臨海コンビナート※1は、石油精製、石油化学、鉄鋼、LNG火力発電所などの素材・エネルギー産業が集積する日本最大級のコンビナートである。
- 一方で、千葉県は、産業部門において、全国でもっともCO2排出量が多い地域※2でもあり、京葉臨海コンビナートのカーボンニュートラル化への転換と国際競争力の維持・強化の両立が、我が国経済の持続的な発展を図る上で、大変、重要な課題となっている。

※1 京葉臨海コンビナートの概要（②～⑤2021年経済センサスより）

- ① 位置 千葉市（生浜地区以南）・市原市・袖ヶ浦市・木更津市・君津市及び富津市の臨海部の埋立地（約5,000ha）
- ② 事業所数 235事業所（県全体の4.9%）
- ③ 従業者数 34,835人（県全体の16.9%）
- ④ 製造品出荷額 5兆8553億円（県全体の49.1%）
- ⑤ 付加価値額 1兆358億円（県全体の33.0%）
- ⑥ 素材・エネルギー産業のポテンシャル

項目	生産等の規模（全国順位）
原油処理能力	64.4万バレル/日（1位）
エチレン生産能力	2,097千トン/年（1位）
粗鋼生産能力	1,001万トン/年（1位）
LNG貯蔵能力	384万キロリットル（1位）

※2 都道府県 部門別CO2排出量

